

参加各位

「馬場小室山遺跡フォーラム」第97回ワークショップ

【復興の原動力！パブリック・アーケオロジー2019】

馬場小室山遺跡とまちづくり環境の「かかわる」から、「山田湾文化」の「つながる」パブリック・アーケオロジーへ

＜馬場小室山遺跡の「見沼文化」と「山田湾文化」の比較考古学への新展開—地域文化と広域運動メカニズムの解明—＞
知識・経験・思考・領域等にみられる現代的限界からの証拠に基づく知的解放を目指して活動します！

新展開1 (ムロ16) までは以前のレジュメ参照	「ムロさま」の「限界領域」打破 (墓場の公共性にみる墓式と葬式の真相解明)	馬場小室山遺跡「第51号土壙」から展望する縄文時代の葬墓式と「土器社会論」—「ムロさま」の「累積型改新土坑墓」と「積葬墓」から探る「追埋設型土器棺集積墓」への途— (ムロ17 予告)「亀ヶ岡文化」の北縁地域における「逆位大形壺」の風習【『利根川』41】
新展開2 (オム9) までは以前のレジュメ参照	「オムちゃん」と「ムロさま」との「限界知識」打破	土偶と土面／顔面付土版／人面文土器等の関係、そして容器形土偶／顔壺へ (オム10 予告)千歳市ママチ遺跡の土面 (オム11 予告)「髑髏信仰」は「ムロさま」から容器形土偶や顔壺の土坑墓へ
新展開3 (シオ1)～ (シオ5) は以前のレジュメ参照	「シオ(塩)もん」の「限界経験」打破 縄文時代の製塩土器は「探鹹・せんごう土器」が真相！固形塩の物流ではなく、「大形魚塩蔵品」・「汽水系塩(海水)煮」に留まらず、濃縮海水を内陸で希釈する「淡水魚(含む特産ウナギ)塩(海水)煮」の普及か？	「製塩土器」の確立から製塩遺跡の操業へ、爆発的普及の晩期社会と「定住制」の定着 (シオ6)三陸北部における「製塩土器」の年代と系統(1)久慈市大芦Ⅰ遺跡の長胴深鉢形態と僅かな出土点数に注目した「探鹹・せんごう土器」の提唱 (シオ7)六十軒遺跡の「製塩土器」二者(古鬼怒湾ケズリ系列VS無文ナデ系列)の意義【『利根川』40】 (シオ8)古鬼怒湾で後期中葉から大量出土の粗製土器とウナギのブツ切り「塩(海水)煮」／「探鹹・せんごう土器」の定着に果たす古鬼怒湾ウナギ「塩(海水)煮」に注目！ (シオ9)シカやサルが舐めていた「縄文山塩」の発見と「山塩煮」の縄文鍋 (シオ10)「微小貝類から想定される「葦灰」製塩の可能性」？アママは「藻灰」×「草灰」○ (シオ11)「製塩土器」に観る「大宮台地系列」(馬場小室山)、「武蔵野台地系列」(正網・下布田) (シオ12)古鬼怒湾の「魚食・塩(海水)煮文化」と加曾利貝塚の「貝食・塩(海水)煮文化」 (シオ13)「補注式灰煮沸法」は現代人のおとぎ話か？「製塩土器」の膨大な個体数と爆発的普及に見合う「アママ灰」製作は煮沸によるせんごう過程と二度手間で非効率！ (シオ14 予告)広畑貝塚の「製塩土器」に付着した微小巻貝の観察
新展開4	「ツナがる」の「限界思考」打破 馬場小室山遺跡の「見沼文化」と「山田湾まるごとスクール」の「山田湾文化」の考古データをエビデンスとし、「ツナがる」をキーワードに新たな比較考古学の推進	「見沼文化」は「撚糸文土器」に地域文化が確立し、「条痕文土器」の地点貝塚形成は列島における「縄文海進」による海洋資源開発の顕在化にある。「見沼文化」と「山田湾文化」がいつ・どのように「ツナがる」か、縦横に現象を見出し、背景にあるメカニズムの解明に挑戦しよう！ (ツナ1)土器の施文原体として九州から北海道まで「ツナがる」貝殻を使用する風習とは？ (ツナ2)仮称「八雲式」の制定と大柄鋸歯文の来歴と組成は前後にどう「ツナがる」か？ (ツナ3)縄文時代早期とは「自然環境としての日本列島を形成し、海洋適応としての貝塚形成の風習が九州から北海道まで「ツナがる」時代」と概念化 (ツナ4)「見沼文化」に集中する「撚糸文土器」とその直後に観られる「押型文土器」の北漸 (ツナ5)「縄文早期／条痕文海進」と「縄文前期／羽状縄文再海進」、そして「繊維土器」の広域展開 (ツナ6 予告)「大洞A'式」直後の三陸地方は弥生時代と「ツナがる」か？

1.【地域間の比較考古学とパブリック・アーケオロジーの底力】： 自然の恵みと基層文化を比較し相対化しましょう！

＜＜ パブリック・アーケオロジーから企図する縄文文化と弥生社会の比較考古学 ＞＞

- ・馬場小室山遺跡を形成する「縄文文化とは何か？」、そして馬場小室山遺跡の次に形成される環濠集落の「弥生社会とは如何にあったのか？」というパブリック・アーケオロジーからの必然の問いに対し、**権威や通説には捉われない坪井正五郎の精神**に則り、**検証可能なエビデンスから立ち上げる接近法に学ぶ構え**を徹底します。
- ・これには「山田湾まるごとスクール」で進めてきたパブリック・アーケオロジーの実践が有効に思えます。未経験のフィールドに立ち、自然が破壊された都会での虚像や常識を払拭し、**未経験の環境や自然に寄り添う生活を学ぶこと**により改めて地域研究の本質へと接近するならば、これまでの**考古データの解釈を抜本的に見直す契機**となり、また高次のトレーニングともなり、**権威や通説とは異なる新たな視点の獲得と展開**が期待できます。
- ・列島は「ツナがる」！ をキーワードに、馬場小室山遺跡の「見沼文化」と「山田湾文化」の考古データをエビデンスとして**新たな比較考古学**を立ち上げ、「交流」をテーマとした**研究展開**を図りたいと思います。

1-1.【大宮台地の方形周溝墓】： 所謂「再葬墓」から方形周溝墓へ

- ・近畿地方を中心に灌漑農業が一定の定着を見た頃、関東地方でも古墳時代まで続く葬墓式の一つとして方形周溝墓が展開します。海上交通による集団移動を契機として東京湾沿岸で発達する現象が顕著ですが、我が大宮台地南部も「宮ノ台式」系譜の集落から方形周溝墓が検出され、以後、後期後半に発達をみます。ここでは解説が煩雑になりますので、上信越の弥生式土器系譜の受容が顕著な荒川扇状地方面は省略に従います。
- ・渡来系集団の葬墓式ではなく、古墳形成の墓式祖型の一つと考えられる方形周溝墓について瞥見し、弥生社会の一端に触れたいと思います。講師は真福寺貝塚の発掘で活躍しております下山繁昭さんをお願いしました。

1-2.【列島の出現期土偶】： 関東における定型性と局所的産出による展開の意義

(1)土偶の不思議： 出現期土偶の表現法(形態と装飾)を読み解きます。

- ・5/26(日)の「やちくりけん」で八千代市上谷遺跡の「燃糸文土器」について学びましたが、そこでは不思議な形態の土偶も検出されており、かつて「さわび通信」で話題になっていたことを思い出しました。



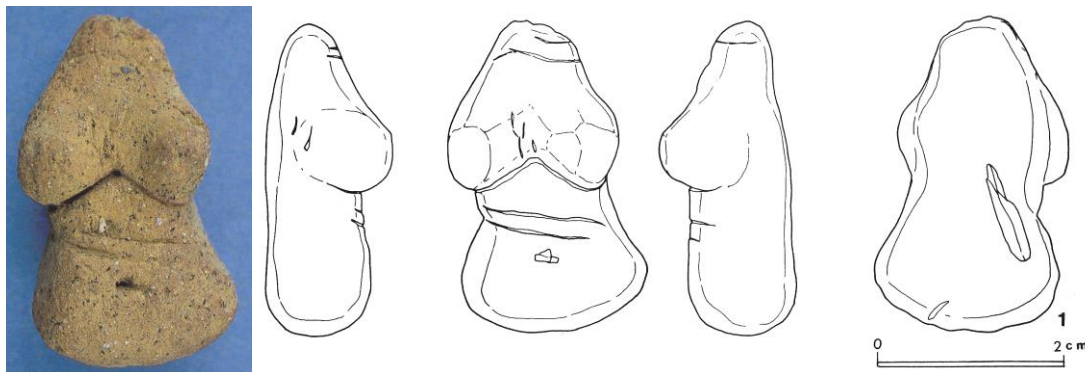
【参考資料】(上)上谷遺跡の土偶 / (下)篠原正(1986)「金堀遺跡出土の土偶に関する一考察」

土器型式	各遺跡出土の土偶	
井草式		
大丸式		
夏島式		
稻荷台式	両国沖Ⅲ遺跡	
	朝倉遺跡	
	寺向遺跡	木の根遺跡
稻荷原式	金堀遺跡	
花輪台式		小間子A遺跡
大浦山式	花輪台遺跡	鶴崎遺跡

- ・上谷遺跡の土偶の類例は産出地が千葉県に偏在しており、さらに年代と共に形態変化を辿ることが良く知られています。そこで列島の出現期土偶と「撚糸文土器」における出現の意義を俯瞰すると共に、それ以後の変遷についても知見を深めたいと思います。講師は安井健一さんをお願いしました。

(2)再び「松木土偶」について：縄文時代前期の土偶としては違和感が大きくありませんか？

- ・馬場小室山遺跡の南東100m位隣には氷川女体神社へと開口する巨大な谷がありますが、この左岸の台地上に**松木遺跡**が所在します。松木遺跡からは3cm 前後の**超小形で顔面表現の無い立体的な乳房を表現する土偶**が包含層から出土しました。包含層出土土器は「撚糸文土器」、早期前半の「沈線文土器」、前期の「諸磯式」や「浮島式」等ですが、果たして松木遺跡の土偶は誰が制作したのでしょうか？



1-3.【「山田湾まるごとスクール」事業関連】：第7回「山田湾まるごとスクール」を実施します！

(1)第7回「山田湾まるごとスクール」による交流日程：9/6(金)～9/8(日)

- ・6/21(金)～6/23(日)に今回の訪問先と日程と交流内容について事前調整を行いました。五十嵐聡江さんから報告して頂きます。

山田史談会：交流日は整理用プレハブにて整理の続き。先般までの整理で残された小片についてこれまでの手続きと同じく分類します。今回のレクチャーは「繊維土器」(齋藤弘道さん)、「弥生時代後期の「赤穴式」」(齋藤瑞穂さん)、「遮光器土偶」(安井健一さん)の予定です。いずれも事前の準備として「川端弘行コレクション」から抽出済みです。

北浜老人クラブ：昨年は浜川目沢田Ⅰ遺跡の資料で縄文時代中期／後期／晩期を紹介しました。今年は「山田湾の弥生時代」について齋藤瑞穂さんが簡潔な説明を行い、縄文時代から弥生時代にかけての食糧生産の変化と共に、山田町の郷土食について学びます。

大浦地区交流会：豊間根地区に近い北浜は農業とも深い縁がありますが、リアス式海岸での漁業集落である大浦とは環境が大分異なりますので、身近な郷土食について比較します。

クジラと海の科学館：山田町の復興シンボルとしての活動状況や苦心談をお聞きます。

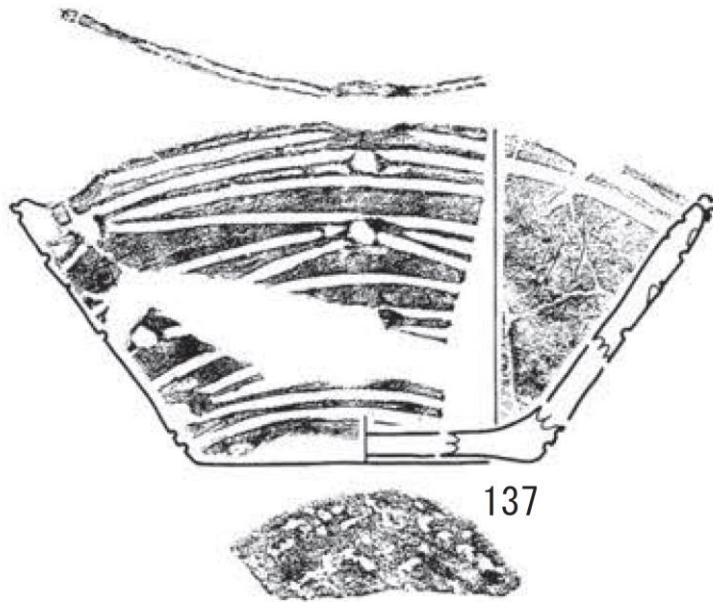
(2)第7回「山田湾まるごとスクール」のテーマ：戦後と縄文時代直後の郷土食について

- ・山田湾の恵みと「愛」をテーマに**郷土食の一昔前**を学びます。私たちの「お米サンタ」活動の参考としても、北浜と大浦の方々から近現代のお米事情についてお話を伺えればと思います。
お米と言えば弥生時代をイメージしますので、山田湾の弥生時代についても生業基盤が何であるのか、理解を深める機会にして頂ければと思います。

(3)山田湾の弥生時代を考える！：「大洞A'式」直後が見当たりません！

- ・山田湾の弥生時代前期といわれる遺跡の立地や集落の形態は、縄文時代前期前葉と中期後半と何ら変わりはありません。寧ろ後晩期の立地とは明確に区別されます。温暖化による環境適応を第一に検討します。
- ・「土器型式」の吟味は、以下の論文が「細別」に拘る唯一で、報告書は大方が差異分析まで手が回らない状態です。「細別」の意義を活かせる高度な適用が課題となり、今後解明することになります。
齋藤 瑞穂 (2018)「第6章 三陸・山田湾沿岸の弥生土器型式—弥生三陸地震津波研究—」『弥生土器型式細別論』、同成社
- ・以下の岩手県埋文調査の千鶏Ⅳ遺跡出土土器に象徴されるように、今の所、山田湾には「大洞A'式」直後の「土器型式」は見当たりません。その殆どが「砂沢式」並行の未命名「土器型式」から順次遺跡を形成する現

象が見られます。「大洞A' 式」直後の「土器型式」は大洞貝塚周辺のデータを用い次回に解説予定です。



2.【その他情報交換など】： 自由な意見・情報交換とワイン・アーケオロジー

2-1. ワークショップ関連予定

- ・8/4(日) : 第98回ワークショップ
- ★7/24(水)～8/11(日) : 遥かな縄文土器(井出政男個展)ワークショップ
- ・9/6(金)～9/8(日) : 第7回「山田湾まるごとスクール」
- ・9/28(土) : 「高井東式」の話(於:桶川市べに花ふるさと館)
- ・12/1(日) : 飯塚邦明ジャズピアノコンサートNo. 13
- ★第99回ワークショップ後、希望者で文化センターへ

2-2. その他

(17) [イルカ] 海豚

- ① おつゆにする場合 お湯を沸騰させたのに、イルカの肉を入れてかきまわし、ポツポツと泡立ちとなったら上げて、お湯を捨てて、また新しくお湯をわかして、ポツポツと出てきたら、ザルに上げてお湯を切って、
新しくお湯を沸かし、大根、人参、後から豆腐と肉と一緒に入れ、味（醤油味）をつけて、下げる時にネギを入れて、蓋をして出来上り。
おいしく食べるころは、皿水のとり方、炊き加減による。
- ② 肉に熱湯をかける場合もある。
- ③ 味噌漬 醤油と味噌とかきまぜて、肉を薄く切り、肉、味噌、肉、味噌と何段にも重ねて、一晚おいて焼くとよい味になる。
- ④ 焼肉 肉を薄切りにして、焼肉として食べるのもよい。
- ⑤ 刺し身 腹肉の油をつけて、刺し身にして食う。
- ⑥ あばらの塩焼 あばらの分を塩づけにして、焼いて食う。
煮てもよい。
- ⑦ 黒いところをとって捨て、白味（油）もとって、赤味を小さく切って、お湯を沸騰させ、肉を入れて、ポツポツと泡が立ったら下げて、みんなザルにあげ、新たにお湯を沸騰させ、その肉を入れて、二回目のザルにあげる。大根、人参などを入れて、イルカと豆腐を入れて醤油味とし、ねぎを入れて出来上り。好みによって白味をつけるところもある。
- ⑧ 五臓六腑を切り、洗い、ニンニク、生姜、玉葱、味噌、醤油などにつけこんで、焼いて食べる。また、塩だけで焼いてもよい。

以 上